

魔法のプロジェクト2022 活動報告書

報告者氏名：吉田 侑右・石田 知江・小島 美和・日置 晋平

報告者記録日：令和5年2月24日

所属：東大阪市立成和小学校

キーワード：コミュニケーションの補助 明瞭な発音 ひらがなへの関心、興味 学習補助

【対象児の情報】

・学年 小学3年生(8歳) 男児

・障害名 知的障がい ジュベール症候群

・障害の困難の内容

知的な遅れがあり、発音が不明瞭で、うまく意思を伝えることができない。

どこに行くにも大人の付き添いが必要である。

・使用した機器 iPad2台 iPhone1台

【活動目的】

・当初のねらい

① 身振りや音声で模倣したり応答したり表現したりすることで、人とのやり取りを楽しむことができる。

② 言葉で自身の気持ちや要求を伝えることができるよさを感じ、積極的に言葉で表そうとする。

③ 100までの数を数え、数の大小や数量の違いを理解し、生活で活かすことができる。

④ 〇時、〇時30分などの大まかな時計の読み方を習得する。

・実施期間 令和4年4月～令和5年2月

・実施者 吉田 侑右 石田 知江

・実施者と対象児の関係 支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

〈生活について〉

・身障者手帳(1種)と療育手帳(A)を所持している。

・「運動場で体育だよ」「トイレに行くよ」などの2語程度の文は、口頭で伝えても理解できている。しかし、それ以上語数のある内容やこそあど言葉の混じった抽象的な内容については理解することが難しい。

・児童自身愛嬌があり人懐っこい性格であるため、教室ではいろいろなことで構ってもらえる。周りの児童が手伝ってくれることもあり自分の要求を伝える機会があまりない。発音も不明瞭で言語での伝達は難しい。

・階段の昇り降りは手すりを持って1段ずつ足を揃えて行っている。

・排泄に関しては、紙パンツを常時着用している。洋式便器に定時に座らせるがなかなか出ない。1年に数回学校のトイレで成功しているが、あとはパンツに出してしまっている。

〈学習について〉

・知的な遅れがあり、特別支援学校学習指導要領の小学部2段階を元に教育課程を立てている。

・自身の名前に入っているひらがなは読み書きできる。ひらがなを見て判別できるのは15文字程度である。語彙数は多く、絵カードを見て物の名前を言うことはできる。

・数字に関しては、1～10までは数の認識もあり、数えて言うことができる。11以上の数字に関しては認識できていない。しかし、文字として読むことができ、同じ数字同士のマッチングは60までできている。

〈環境について〉

★昨年度

・本校の支援学級の児童は生活の基盤を交流学級においており、支援学級で学習できるのは、交流学級が国語と算数の時間(1日2時間～3時間)。大抵は、まわりと同じ内容に取り組んでいた。観察カードや工作、絵などの課題であれば、支援者とともに取り組むことができるが、理解の難しい内容であれば、支援者が用意した課題に取り組んでいた。

・交流学級では、まわりの友だちと一緒に積極的に活動していた。

・校内の教室間の移動は、必ず大人が付き添っていた。

★今年度

・理科と社会を交流学級で参加する回数を減らした。理科では、「実験を楽しむこと」、社会は、友だちの中で本児にできる学習活動を考えており、支援学級教室での学習時間も増えた。

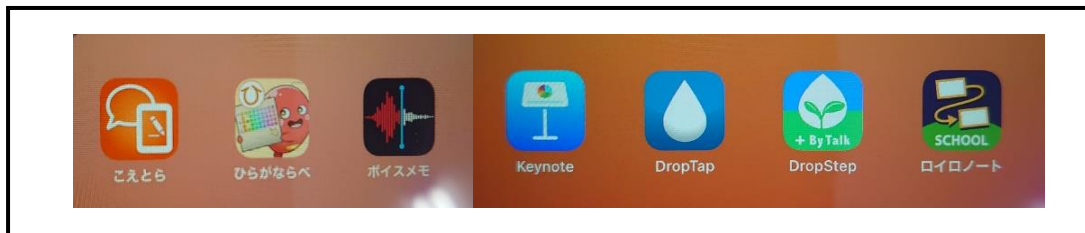
・教室間移動の際には、階段移動がないように教室の配置を1階に統一している。

・校内での教室間での移動は、必ず大人が付き添っている。

・支援学級での学習の際には姿勢保持椅子を使用している。

活動の具体的内容

① 「身振りや音声で模倣したり応答したり表現したりすることで、人とのやり取りを楽しむことができる」ために

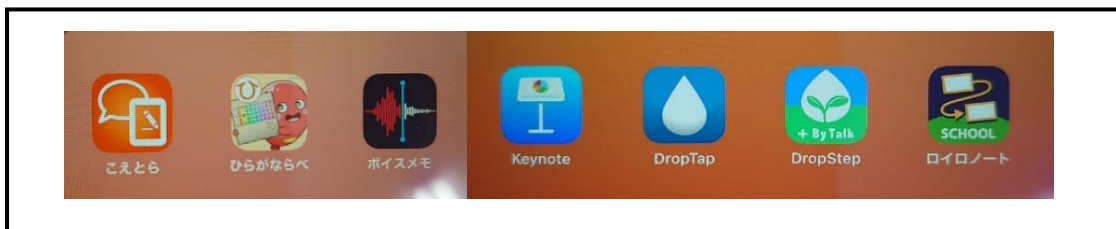


・「ロイロノート」を使用し、毎日2時間目に行っている「朝の会」の時間にロイロノートに提出している週末の出来事についてスピーチをする取り組みを行っている。その際に、提出箱に入っている写真をもとに発表する。週末の出来事だけでなく、自分の好きな場所や好きな食べ物など週替わりで変えている。

・「DropTap」を使用し、日常でのコミュニケーション「はい」「いいえ」「たのしい」や「かなしい」などの気持ちを伝えることに利用できるよう取り組みを行っている。

・「DropStep」を使用し、家庭での出来事をメッセージや絵文字等で伝えることができるよう取り組みを行っている。

② 「言葉で自身の気持ちや要求を伝えることができるよさを感じ、積極的に言葉で表そうとすることができる」ために



・「ボイスメモ」を使用し、2文字～3文字の言葉を発音して録音する。録音した音声を確認しながら、発音の練習をする取り組みを行っている。

・「ひらがならべ」を使用し、50音表を見て音を楽しんだり、音を組み合わせる単語を作ったりする取り組みを行っている。

・問いかけや質問に対して「ことえら」を使って、簡単な回答を行う取り組みを行っている。

③ 「100までの数を数え、数の大小や数量の違いを理解し、生活で活かすことができる」ために



- ・ブロックや「あわせ10」を使用し、数の増減や大小について気づけるような取り組みを行っている。
- ・カードや「かずあそび」を使用し、順番に合わせて数字を読めるように取り組みを行っている。

④ 「〇時、〇時30分などの大まかな時計の読み方を習得する」ために



・具体物や「とけいのよみかた」を使用し、針のさしている数字を見て、〇時、〇時30分を答える取り組みを行っている。

◎対象児の事後の変化

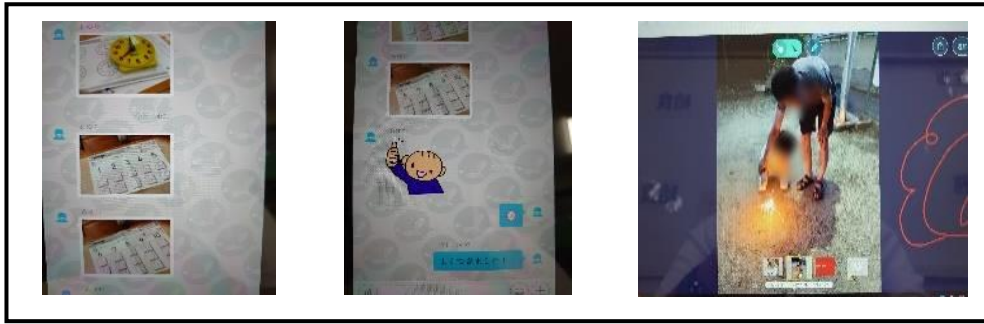
①身振りや音声で模倣したり応答したり表現したりすることで、人とのやり取りを楽しむことができる。



◎様々な方法で自分の気持ちを伝えることができる。

→家での様子を「誰と、どこで、何を」したのかその時の気持ちを「DropTap」や気持ちカードで表すことができるようになった。また、言葉がうまく出ない部分は、写真と一緒に提出しているカードを参考に支援者が補助することで伝えることができるようになってきている。

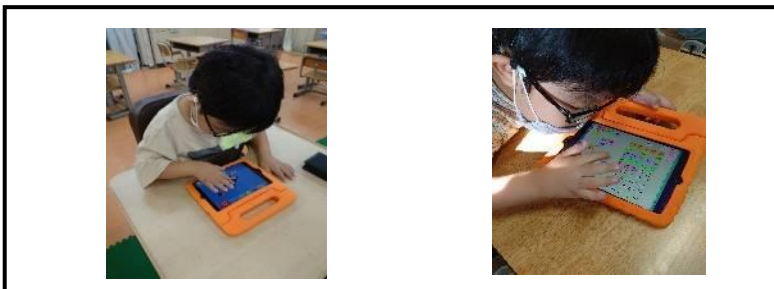
→交流学級でも自分の気持ちを「DropTap」に入っている気持ちや言葉カードを使って伝えることができるようになった。また、意思表示なども身振り手振りを使って積極的に伝えようとする姿がよくみられるようになってきている。



◎家での様子や出来事を伝えることができる。

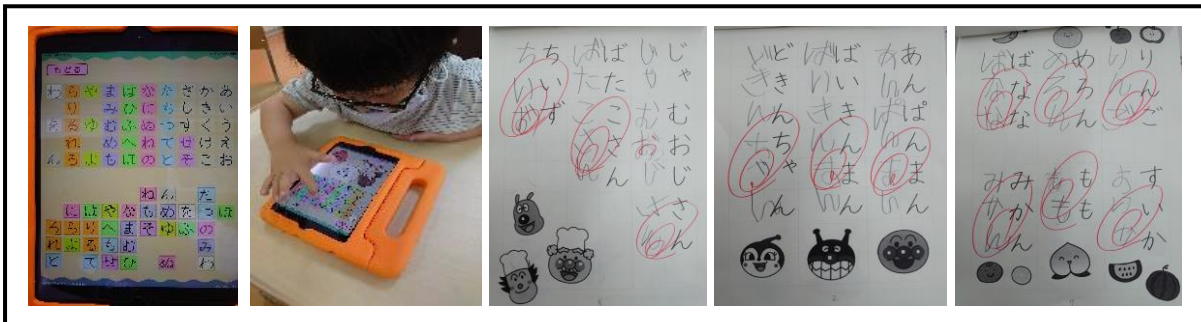
「DropStep」で自分のやったプリントや家での様子などを伝えることができるようになってきた。言葉で伝えることが難しいので、スタンプや写真を送ることで表現することができるようになった。

◎言葉で自身の気持ちや要求を伝えることができるよさを感じ、積極的に言葉で表そうとする。



◎発音が明瞭になってきた。

言葉カードを使い発音の練習をしてきた。「ボイスメモ」で繰り返し録音し聞き返し発音することで母音の発音が明瞭になってきた。か行、さ行、な行も比較的聞き取りやすくなってきたことで、自信をもって話すことができるようになってきた。

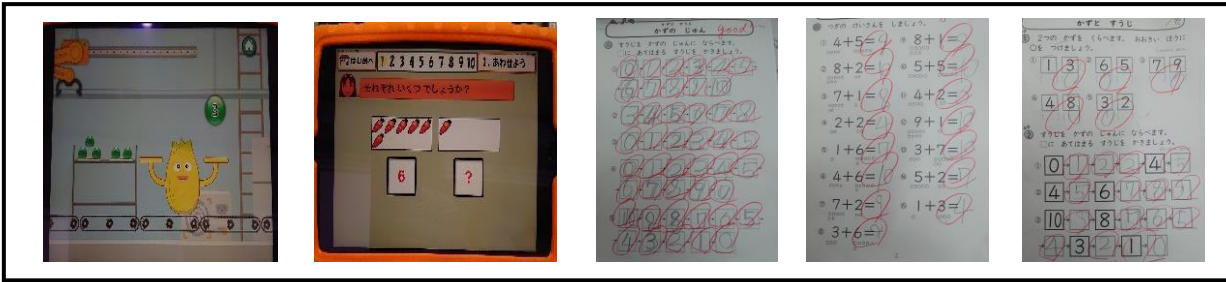


◎ひらがな 50 音や 3 文字の単語の習得。

「ひらがなならべ」を使い、50 音表を見て発音する練習をした。読めるようになったひらがなも画面をタップして音を確認しながら、あ行からわ行まで順番に当てはめていくことができるようになった。また、50 音表から「あいす」「からす」などの 3 文字の単語を作ることができるようになってきた。

書くことができるひらがなも増えてきた。

③100までの数を数え、数の大小や数量の違いを理解し、生活で活かすことができる。



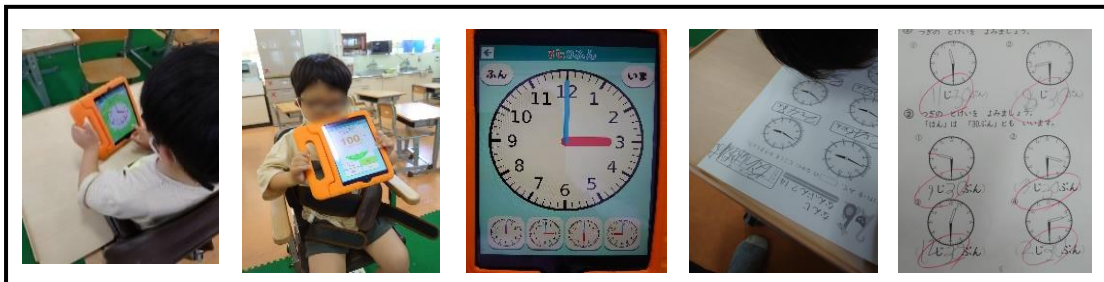
◎数字に興味をもつことができる。

「かずあそび」を使って、数字を順番に並べていくことで数字への興味が出てきた。1～80の数字に関しては少しずつ定着してきている。また、日常生活に出てくる日付や時計などの文字盤を指さして「同じ」と発言する姿も見られるようになってきた。

◎数量の大小関係に気づくことができる。

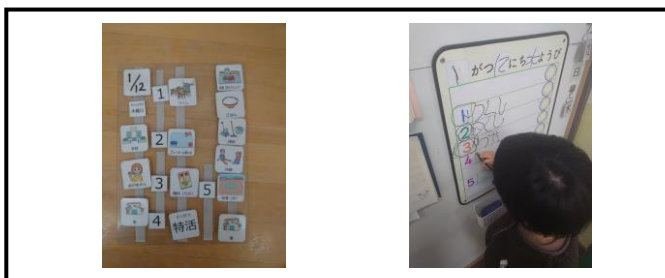
「かずあそび」や「あわせ10」を使って、数量の組み合わせや増減について学習してきた。1～10の大小関係について、多い方をさし示すことができるようになった。

④〇時、〇時30分などの大まかな時計の読み方を習得する。



◎時刻を読むことができる。

プリントと「時計の読み方」を使って、〇時、〇時30分の学習をしてきた。はじめは長い針がさしている数字を見て「6」と答えていたが、30分と答えられるようになってきている。短い針が数字の間にあることに疑問をもつなど、時計の学習に興味をもって取り組んでいた。



◎生活に繋げて時間や時刻に興味をもつことができる。

支援者の腕時計や教室の時計にも興味を持つようになり、1日の時間に対して見通しをもとうとする姿も見られるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

〈主観的な気づき〉

・「うれしかったです。」

日常的に自身の気持ちを伝えらるようになったのは、毎日支援学級で行っている朝の会でスピーチをした後にカードを使って自身の気持ちを伝える機会を取ようになったからだと考えられる。Aさんにとって言葉や身振

手ぶりだけ伝わりきらない内容でも自分の気持ちをみんなに見える形で分かってもらえることが、安心感に繋がったのではないだろうか。また、教師も A さんの気持ちが見えることにより全体へ広げる声かけや配慮に繋がった。

・「かいた」

4 月当初は、自己主張はしっかりとできていたものの、人数が多い時などは恥ずかしがって隠れることや、もしもじと支援者がサポートするのを待っていた状態だった。しかし、朝の会でついた自信をもとに少しずつ交流学級での自己表現、主張ができるようになってきた。11月のことだが、支援学級で描いた絵を交流学級に持って帰り、みんなの前で嬉しそうに見せていた。その時も「かいた。」と堂々と前で発表していた。その絵は、交流学級の教室に貼っているが、今もいろんな人に「あれ、かいた。」と自信満々に指をさして説明している。

・「できた。やった〜」

日常生活の中でできたことに自信をもって表現することができるようになってきている。日常的にある給食や授業の中で自分の力でできたことについて「できた。やった〜」と両腕を挙げていろんな人にハイタッチをしようとするようになった。交流学級の児童だけでなく、いろいろな教員に対しても行っており、その際に何ができたかを一生懸命に伝えようとしている。

・「つぎ、なに？」

時計の学習を始めてから、すぐに時計への興味が出て、家でも指をさして〇時という機会が増えたようである。学校でも「次、何？」と質問する機会が増えてきた。その後しばらくしてから、支援学級に置いてある時間割ボードに興味を持ち、1日の始まりに自分で今日の時間割を書くようになった。スケジュールボードも併用して使っており、1時間ごとに終わった教科カードをはがして確認している。その結果、支援者の声かけがなくても次の行動に移れることが増えてきている。

〈エビデンス〉(具体的数値など)

・読めるひらがなが増えた。

4月に15文字程度しか読めなかったひらがなが、1月には25文字程度まで読めるようになった。発音が不明瞭な部分はあるが、支援者が提示したひらがなをみて読むことができていた。また、言葉カードを提示したときに以前は「かに」「ねこ」とそのまま言っていたのが、指差しをして一文字ずつ発音することができている。

・発音が明瞭になった。

4月当初は、母音と子音の発音の違いが分かりにくかった。7月には、か行やな行などの判別ができるほどに聞き取れるようになった。1月には、さ行やま行も少しずつ聞き取れるようになってきた。交流教室でも自分の言葉で伝えられることが増えた。

・読める数字が増えた。

4月に1〜20まで読むことができたが、1月には1〜100まで読むことができるようになった。順番に読むだけでなく、「17、□、19」など虫食いの状態の数字も当てはめて読むことができた。

・数字の大小関係について分かった。

1〜20までの数字の大小関係について数字や図を見て答えることができた。1学期中は、図と数字をみて答えることができる状態だったが、2学期には数字だけを比べて大小関係を答えることができた。

・時計を読むことができる。

4月には、全く読むことができていなかったが、12月には時計の針を見て〇時や〇時30分を答えることができた。また、1日の流れにも興味を持つようになり、時計と時間割表を連動して確認するようになった。

【今後に向けて】

彼に出会って約3年。昨年度までは、あまり関りがなかったが、今年度から近くで活動をする機会が増え、日々成長していく姿を見てきた。1年前は、人懐っこく、誰にでも話かけていくのだが、自分の気持ちが伝えられなかった。それが今では、言葉や身振り手振りを使って根気よく伝えようとする姿が見られるようになってきた。言葉の内容が伝わることも増えてきて、自信もついてきたことで、多人数での発表や人前に立つことにも抵抗感がなくなり、主体的に活動に参加することができている。学習面については、数字や時刻に興味を持つことで生活に活かすことができている。

今年度は、自信に繋がる成功体験を細かく積み重ねることができた1年だったと思う。どうしても運動面やコミュニケーション面で制限があるが、その中でも持ち前の愛嬌と素直さでクラスでも唯一無二の存在である。来年度も交流学級での関わりの時間を大切にしながら、自立に向けたカリキュラムを編成していけたらと思っている。